

## ターンテーブルアキュライザーの活用(2)

—EMI DLS529—

### 1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、ターンテーブルアキュライザーの導入シリーズでその効果を確認してきました。さらにスピーカーシステムを替えて効果の確認をいたします。

### 2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴方法

今回は、Rogers Cadet III駆動のEMI DLS529 スタディオモニターで試聴します。LP-12によるEMI DLS529の試聴は、[LINN LP-12の再構成\(29\)](#)で報告しています。ThorensTD124によるEMI DLS529の試聴は、[ThorensTD124の活用\(2\)](#)で報告しています。

使用するプレーヤーの最新の状況はそれぞれ以下で報告しています。

#### LINN LP-12

[LINN LP-12の再構成\(32\)](#)

[LINN LP-12の再構成\(34\)](#)

#### ThorensTD124

[アナログプレーヤーの比較試聴\(18\)](#)

#### Garrad401

[アナログプレーヤーの比較試聴\(18\)](#)

今回試聴する音源は以下のとおりです。

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

### 3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴結果

再生時には、上記のアナログプレーヤーにTACU-1をセットし、LINN LP-12と

ThorensTD124 においては、24 の奇想曲と選帝侯のソナタは、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で、ワルキューレは DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 では、24 の奇想曲は、時代物でコーンツイーターの EMI DLS529 とは思えないほど、アッカードのボウイングが冴えています。試みに TACU-1 を外したところ、ヴァイオリンの音色が粗くなってしまいました。

選帝侯のソナタは、これもオーソドックスでバランスのよいピアノの演奏が楽しめますが、試みに TACU-1 を外したところ、音が濁って雑な印象になりました。

ワルキューレは、スケール感 FAL や前報(1)の JBL に及ばないまでも、意外にバランスよく、細かい表現も出ています。

ThorensTD124 では、24 の奇想曲は、コーンツイーターの割には、細かい擦弦音や胴鳴りも再現できており、バランスの良い音になっています。

選帝侯のソナタは、この場合もオーソドックスでバランスよく響きの良さも伝わってきます。

ワルキューレは、SPU カートリッジの良い面がでて、厚みのある押出の良い音で、ソプラノやメゾソプラノの声も明瞭です。

Garrad401 では、24 の奇想曲は、この場合もコーンツイーターの割には、細かい擦弦音や胴鳴りも再現できています。使用しているカートリッジも細かいニュアンスの表現には適していないと思っていましたが、TACU-1 が助けているようです。

選帝侯のソナタは、この場合もオーソドックスでバランスよく響きの良さも伝わってきます。

ワルキューレは、ThorensTD124 ほどではありませんが、ほどほどの解像度で迫力のある音がしています。

#### 4. まとめ

3 システムとも、TACU-1 の適用により、時代物でコーンツイーターの EMI DLS529 ですが、バランスの良い音で、TACU-1 有無の違いも明確でした。

以上